

検査項目		検査についての説明
免疫血清検査	C R P	急性の炎症や組織の損傷があると、血液中に増加するタンパクの一種で、この検査により炎症の有無や程度が把握できます。急性感染症、化膿性炎症、悪性腫瘍、膠原病、心筋梗塞などで増加します。
	R F	慢性関節リウマチで血液中に認められるリウマチ因子を調べます。膠原病、肝臓疾患などのリウマチ以外の疾患でも陽性を示すことがあります。
	H B s 抗原	B型肝炎の原因ウイルスであるB型肝炎ウイルスによる感染の有無を調べる検査です。陽性の場合、体内にB型肝炎ウイルスが存在することを意味します。
	H B s 抗体	B型肝炎の原因ウイルスであるB型肝炎ウイルスによる感染の有無を調べる検査です。陽性の場合、過去に感染したことがあるか、またはワクチン投与を受けたことがあることを意味します。
腫瘍検査	H C V 抗体	C型肝炎の原因ウイルスであるC型肝炎ウイルスによる感染の有無を調べる検査です。陽性の場合、感染の存在または既往を意味します。
	C E A	腫瘍がある場合などに出現する特殊なタンパクを調べる検査で、腫瘍の早期発見や経過の観察に使われます。全ての腫瘍で高値になるとは限らず、また、腫瘍以外の疾患や喫煙、妊娠などでも高値になる場合があります。
	C A 1 9 - 9	
	A F P	
P S A		

- ・ C E A、C A 1 9 - 9：消化器系腫瘍など
- ・ A F P：肝腫瘍、肝硬変など
- ・ P S A：前立腺腫瘍、前立腺肥大症など